【FC 大阪】2024Jリーグ新人研修　クラブ運営サポート活動レポート

山本 透衣、小島 凛士郎、望月 想空、澤崎 凌大、堤 奏一郎、西村 真祈、林田 魁斗

2024 年 8 月 20 日（火）、21 日（水）、東大阪市の各商店街でポスターローラー活動のクラブ運営サポート活動を行いました。

・関連部署：ホームタウン

・活動内容、目的

チームの PR 活動、地域活性化を目的とし活動を実施。

また、選手自身も地域の方々と直接交流することでチームの立ち位置等、肌で感じることで社会人としても成長する機会にしようと考えました。

◎選手のコメント

山本 透衣 選手

自分が思ってる以上に FC 大阪を応援してくれていることを感じることができた。

小島 凛士郎 選手

FC 大阪を応援して下さる方々と直接交流することができ、とても良い時間となった。

望月　想空　選手

1 人ひとりと向き合い、感謝することで愛される組織に近づいていくものだと感じた。

澤崎　凌大　選手

応援して下さる方々に恩返しできるよう絶対 J2昇格を成し遂げたい。

堤　奏一郎　選手

様々な言葉をいただき、より一層責任感を持ってピッチ内外で行動していくと決意した。

西村　真祈　選手

選手自身が足を運び、知ってもらうことで更に応援してもらう大事な活動となった。

林田　魁斗　選手

応援してくれる方々に勇気や感動を与えなくてはいけないと改めて感じた。

写真提供／FC 大阪

【FC 大阪】2024Jリーグ新人研修 シャレン！活動レポート

望月 想空、澤崎　凌大、西村　真祈、堤　奏一郎、山本　透衣、夏川　大和、小島　凛士郎

2024 年 9 月 ～ 11 月の期間にて、東大阪市内各小学校で、望月 想空 選手、澤崎 凌大 選手、西村 真祈 選手、堤 奏一郎 選手、山本 透衣 選手、夏川 大和 選手、小島 凛士郎 選手が、「夢授業」のシャレン！活動を行いました。

地域・社会課題：
行政課題解決を目的とした地域活性化に向けた取り組みを実施。
「少子化、デジタル化による社会性を育む場の減少・体力低下」が子どもたちの課題

②協働者：
東大阪市役所・東大阪市各小学校・大阪信用金庫東大阪支店、荒本支店、永和支店

③活動概要や内容、目的
［活動内容］
子ども達の夢を応援する夢授業として「夢教室」「サッカー教室」を実施。
■夢教室
FC 大阪選手自身の経験から困難を乗り越えて夢に挑戦した体験を伝え、プロジェクターを使って質問形式で授業を実施。
夢教室のあとにオリジナルで作成した「夢シート」を使って、子ども達の「いま好きなことや得意なこと」「将来の夢」「その為にできること・やってみようと 思うこと」などをその場で記入し、発表する時間を 設けます。
自分の夢を文字で書くこと、言葉にすることで夢に 向かう子ども達を後押しします。
■サッカー教室
プロサッカー選手と子ども達が協力して様々なゲー ムを実施。サッカーを通してみんなで体を動かすことにより、緊張をほぐしながら、クラス全体に「協力すること」「思いやりの心」「全力で取り組むこと」「ルールを守 ること」などの大切さを伝えます。
［目的］
現代の子ども達が取り巻く環境としては、少子化やデジタル化が進み、子ども達が社会性を育む場である外遊びが減少し、子ども達の体力低下や運動不足が懸念されている為、サッカーチームとして子ども達の「未来」につながる活動として夢授業を実施。

◎選手のコメント
堤 奏一郎 選手（10 月 10 日・森河内小学校）
夢授業を通して、地域の子どもたちと関わることの大切さを感じることができました。
自分が小学生の頃にプロサッカー選手に憧れたように、プロサッカー選手としての振る舞いを小学生に見せることで、サッカーの楽しさを感じてもらうことや新たな夢を持ってもらうことに繋がると思います。また、スタジアムに足を運んでもらうように呼びかけ、来てもらうことで、ファンサポーターによる応援や試合の雰囲気を体感してもらうことができます。それが自分が所属するクラブだけでなく、サッカー界の更なる発展にも繋がると考えます。
これからも、選手としてこのような活動を続けていくべきだと感じました。

夏川 大和 選手（11 月 21 日・玉串小学校）
実際に小学校での夢授業を実施してみて、私自身のこれまでの成功体験や失敗体験、アドバイスなどを話す機会がこれまでなかったので、凄く良い経験になりました。夢授業を通して小学生の元気な姿やサッカーへの熱量にパワーを貰えてもっと頑張ろうと思いました。

山本 透衣 選手（9 月 13 日・西堤小学校）
夢授業を通してプロサッカー選手でいる限りは常に誰かの憧れであり、それ相応の振る舞いをし続ける必要があるんだなと思いました。ピッチでの表現はもちろん、ピッチ外でも誰かに見られて

いる可能性があるということを忘れず行動しないといけないなと感じました。また、僕らの結果ひとつで喜んでくれる子ども達の為にも全試合勝つくらいの気持ちで頑張らないといけないと思いました。

澤崎 凌大 選手（11 月 5 日・弥刀東小学校）
子ども達から元気やパワーを貰ったのはもちろん、改めて夢や目標を持つ事の大切さを感じることが出来たので、今回実施出来てとても良かったです。

小島 凛士郎 選手 （10 月 17 日・若江小学校）
夢授業を実施してみて、プロサッカー選手にとにかく憧れていた幼い頃の自分を思い出し、プロサッカー選手は誇りある職業であるということを改めて感じることが出来た。さらに、自分がどういう努力をして苦労してプロサッカー選手になったかをアウトプットすることによって、プロになるまでの苦悩を思い出し、今以上に頑張ろうと強く思うことができるとても良い時間になりました。

西村 真祈 選手（9 月 20 日・縄手北小学校）
夢授業を通して、自分自身がプロサッカー選手である自覚を大きく持つことに繋がった。小学生に夢を持つ大切さを伝える過程で、自身の理想のサッカー選手像でもある「夢を与えられる選手」についても考えさせられた。他にも相手側からプロサッカー選手という職業に対しての尊敬を大きく感じ自分自身の与える影響の大きさも知ることができた。

望月 想空 選手（9 月 20 日・縄手北小学校）
夢授業を行って感じたことは、自分の夢について語るということにおいて、もう一度自分自身を振り返れるという点と、これからの未来を担っていく子ども達が将来について深く考えるきっかけに自分自身が関わることが出来た点についてとても良かったと思っています。そして、プロサッカーチームが存在すること、サッカーの楽しさを伝えることが出来る活動なので、今回以外にも様々な場所で実施したいと思いました。

写真提供／FC 大阪

FC OSAKA
～若江小学校 夢授業～